

令和7年3月25日

令和6年度 学校関係者評価委員会議事録

学校法人 栗原学園

北見情報ビジネス専門学校

学校関係者評価委員会

学校法人栗原学園の学校関係者評価に関する規定に基づき、学校関係者評価委員会を実施しました。下記にその内容を公表いたします。今後も各評価委員からのご意見を真摯に受け止め、より良い教育を目指し学校教職員一同努力して参ります。

1. 開催日時 令和7年3月25日（火）18：00～
2. 場 所 北見情報ビジネス専門学校 4F 402教室
3. 出席者 規程の委員および学校職員
4. 次 第
 - （1）開会
 - （2）校長挨拶
 - （3）協議事項
 - ①学校関係者評価委員会趣旨説明
 - ②学校関係者評価 教職員自己点検による報告
 - ③意見聴取
 - （4）閉会

学校法人栗原学園 学校関係者評価委員会は令和6年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告いたします。

1. 学校関係者評価委員

選出区分	氏名	就任時の職名等
企業等委員	近藤 千鶴	株式会社ベストミント 代表取締役社長
企業等委員	由村 公平	株式会社日本旅行北海道 マネージャー
企業等委員	柴田 喜史	社会医療法人恵和会 アメニティー美幌 事務長代理
企業等委員	坂井 浩	株式会社坂井印刷 代表取締役社長
卒業生	野田 貴浩	株式会社タカノ商事 課長

参加者（敬称略）

2. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

項 目	評 価
	北見情報ビジネス専門学校
基準Ⅰ 教育理念・目標等	2) 社会のニーズ等を踏まえた学園の構想を抱いているか →今年度は北見市内の就職が少なかった為、市内就職指導を行っていきたい。(事務局林) 委員会より意見無
基準Ⅱ 学校運営	②情報システムについて →DX の導入を検討したが、学校単体では連動性が薄いため、学園全体で導入を検討したい。教員によるシステムの自作を令和8年度実現を目指し実施中。(事務局林より追記) 3) 情報システム等による業務の効率が図られているか →学生も生成 AI の活用が増えているが、認識(正解と思っている)違いあることから、AI リテラシーも進める必要がある。(事務局林) 委員会より意見無

基準Ⅲ 教育活動	4) 関連分野の企業、関連施設等、業界団体等の連携により、教育課程の作成、見直しが行われているか →研修数が少ない。学園や全学科で行ってしまった結果であり、年2回は各分野で研修を受ける必要がある。(事務局林) 6) 授業評価の実施、評価体制があるか →現在の学生アンケートでは自由記述部分が多いため、具体的に評価ができるようなアンケート内容に変更したい。(事務局林) 委員会より ○年2回の研修でDXの事を学ぶのは難しいのではないかな。 自社では月1回行っていても忘れてしまうこともある。実践的にやらせて覚えてもらうしかないな。と日々思っている。その中で10年後学園としてどのような形の構想をしているか？(由村マネージャー) →学校としても同様の意見があり、企業と学生を結び付け、モノ作り(締め切りのある)をさせていきたい。(事務局林) ○事務の就職が多くあると思うが、今後減っていくと思う。その中で生き残るためにこういった武器を持っていきたいか。(由村マネージャー) →ホテル観光ビジネス学科閉科に伴い、培ったノウハウを総合事務科にも活かしていけるカリキュラムを策定中。(事務局林)
基準Ⅳ 教育成果	1) 就職率の向上は図られているか →3/25時点で情報通信科の内定者は22名→23名となった。(事務局林) パート採用のため、正社員数に変更なし。(事務局林) →現1年生で2名内定が出ている。早期化がさらに早まってきているが、学校としては入社後の継続性を身につけさせたい。(事務局林)

	2) 退学率の低減は図られているか ②退学率の低減について →令和6年度2名は3名に変更（事務局林より追記） 委員会より意見無
基準V 学生支援	2) 学生の経済的側面に対する支援は整備されているか →令和7年度より国の修学支援制度の拡充（3人兄弟の場合でも対象になるケースがある）がされるが、複雑な制度になってきており、高校側でも周知されてないケースが多い。（事務局林） 委員会より ○専門学校ではあるが、道徳という授業はどのようなことをしているか？ →例でいうと締め切りの守り方の指導がある。足りない部分を今までの学校はどうにかしてもらえた部分を自己で考えさせるようにしている。X年後にどうなりたいか、頑張った部分や履歴書での自分なりの書き方などを自分なりに考える授業形態である。（事務局林） →1年生の内から卒業までの計画（資格・就職・私生活の目標等）を立てさせることも行っている。（事務局林土澤） 5) LHRなどを効果的に活用し、職業観の育成に努めているか →学校側からの指導に対して学生に慣れが出てきている為、各企業様からお話ができる体制を取りたい。（事務局林）
基準VI 教育環境	委員会より意見無

基準Ⅶ 学生募集	1) 学生の募集は適切に行われているか → 3月25日時点で総合事務科に2名追加の可能性あり（事務局林より追記） 委員会より ○入学者数増加に伴って強化していることはなにか？（柴田事務長代理） → SNSの強化を図っている事と、高校生への職業講話を頂くケースが増えてきており、直接接触の機会を増やし、情報提供を行っている。（事務局林） ○SNSはどういったツールを使っているか。（柴田事務長代理） → 目から入りやすいInstagramを中心に、連絡の取れる公式LINEを主に使用。Instagramに関しては週に1回投稿を目標にしていきたい。（事務局林） ○就職のイメージがないが、実際どうか（近藤社長） → 8～9割進学というほど就職率は減ってきている。課題として、普通科の高校は大学に進学させる傾向が強い為、廉価版でないことの浸透をさせる必要がある。（事務局林）
---------------------	--

基準Ⅷ 財務	委員会より意見無
基準Ⅸ 法令等の遵守	委員会より意見無
基準Ⅹ 社会貢献等	委員会より意見無

3. 学校関係者評価 全体的な総括について

自己点検・自己評価報告書を見ての全体的な意見	○しっかり自分たちを見つめ、学生に向かい合っていると感じる。学生数増というのは学校の評価であり、北見商科高等専修学校からくる生徒らは先生を見ている。だからこそ入学している。 新しい試みを実施している事も評価に値する。（坂井社長） ○学生1人1人のため、常に学んでいる姿勢を感じる。設備投資の大変さを感じた。（近藤社長）
------------------------	--